

宮城県石巻西高等学校 第1学年 保健体育科学習指導案

指導日時：平成28年10月12日（水）第3校時
 指導学級：第1学年5組（男子13名）
 指導者：宮城県石巻西高等学校 教諭 針生 智博

1 単元名 「球技 ベースボール型（ソフトボール）」

2 単元の目標

- (1) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にし、互いに助け合い教え合いながら、自己の責任を果たすことができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- (2) これまで学習した知識や技能を活用して、チームや自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。 【思考・判断】
- (3) 安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開することができるようにする。 【運動の技能】
- (4) 技術や戦術を活用した作戦で、課題解決に向けた安全で合理的な練習の仕方があることを理解できるようにする。 【知識・理解】

3 指導にあたって

(1) 単元について

球技は、ボールを媒体として、集団対集団・個人対個人で攻防を展開し得点を取り合って勝敗を競い合うことや、チームの課題や個々の能力に適した課題の解決に向けて取り組んだり、ゲームを楽しんだりする運動である。ソフトボールは、攻撃側と守備側に分かれ、攻防を規則的に交替しながら、一定のインニング内の得点で勝敗を決めるところに楽しさや喜びを味わうことができるスポーツである。特に、バットでボールを打つところに魅力を感じ、打たれたボールを捕球して打者や走者をアウトにするところに面白さがある。また、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやジャッジを尊重し、試合後にはお互いを讃えあうなどのマナーやフェアプレイの考え方を大切にすることも重要である。仲間意識や協調性が希薄になっている現状を考えると、ソフトボールの特性に触れながら、仲間と協力し、楽しさや喜びを分かち合う態度を育てるためには適切な題材である。

(2) 生徒の実態

〇組男子13名の在籍である。授業への取組は、全体的に協調性もあり、楽しみながら授業に取り組もうとする雰囲気がある生徒たちである。これまでの運動技能の獲得状況やスポーツテストの結果から、やや個人差が見られる。しかし、自分のペースではあるが最後まで取り組もうとする姿勢はもっている。事前に行ったアンケート結果は次の通りである。

質問事項	調査結果	
1. 運動することは好きですか？	はい	【12名】
	いいえ	【1名】
2. 体育の授業は好きですか？	はい	【13名】
	いいえ	【0名】
3. 運動種目の中で好きなものはどれですか？ ＜複数回答あり＞	陸上競技全般【3名】	武道全般【8名】
	水泳競技全般【2名】	球技全般【2名】
	器械体操【0名】	
4. ソフトボールを授業（小学生・中学生の時など）で行った経験はありますか？	はい	【9名】
	いいえ	【4名】
5. キャッチボール（ボールを投げたり捕ったり）はできますか？	はい	【13名】
	いいえ	【0名】
6. バッティング（バットでボールを打つ）はできますか？	はい	【8名】
	いいえ	【5名】
7. ソフトボールで苦手になっているプレーを教えてください。	・フライの捕球【3名】 ・ゴロ捕球【2名】 ・走塁【2名】 ・打撃【3名】 ・ピッチング【3名】	
8. ソフトボールの授業で、どんなプレーを上手くなりたいですか？	・守備【5名】 ・送球【2名】 ・打撃【6名】	
9. ソフトボールの授業を楽しみにしていますか？	はい	【13名】
	いいえ	【0名】
10. ソフトボールの種目で知っている専門用語を知っているだけ書いてください。	・ダブルプレー ・デッドボール ・守備位置名 ・ライズボール ・エンドラン ・バント ・ウィンドミル投法 ・セーフティーバント	

ベースボール型球技であるソフトボールの授業の経験率は、約70%であった。地域的なことや、環境要因を考えると、ある程度の生徒数を必要としたり、グローブやバット、安全面を考えてのヘルメットやマスクなどの用具がたくさん必要なこと、活動を安全に行うための施設（場の設定）が必要であることなど、各中学校では、実施できなかったことが推測される。どの生徒も、ソフトボールの授業への参加意欲は高いことから、学習方法を工夫し、お互いを認め合える活動を取り入れ、生徒個々の意欲の向上をさらに図り、技術の向上にも努めたい。

(3)指導について

生徒の意欲を引き出し、課題の達成に向けて取り組めるよう次の手立てを講じて指導していきたい。一つ目は、安全面への配慮である。バット・ボールともに天然ゴムや発泡ウレタンを素材として作られた、学校体育検定バットと学校体育検定ボール（3号）を使用し、ボールへの恐怖心やケガの防止に努めたい。二つ目は、ティー台を用いることで、打撃の際、打球の投手直撃を防ぐ配慮も行いたい。さらに、ティー台を用いることで、守備側は投球技術が難しいとされる投手の負担を減らせることや、攻撃側にとっては自分の打ちたいポイントにボールを設定することで、打撃の向上につなげていきたい。三つ目は、内野ゴロは捕球しただけで一死、フライは内外野どこでも捕球すれば二死とするなど、守備側の技術的な負担を減らし、生徒の実態に応じてルールを配慮したい。今回実施する学級の生徒数は、13名ということもあり、9対9の人数による試合が不可能なことから、4人・4人・5人の3チームに分け、1チームが攻撃して2チームで守備をするといった、3チームによる攻防でゲームを行わせたい。さらに、ゲームを行うにあたっては、アウトカウントや走者の位置を指定し、攻防を行わせることで、何も考えずにただ打ったり守ったりするのではなく、作戦というものが必要になることを感じ取らせたい。また、自己やチームの攻撃側の作戦をイメージさせながら学習を進められる学び合いの場を設定したいと考える。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に取り組もうとしている。	・チームや自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	・作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、試合の行い方を理解している。

学習活動における具体的評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
①ソフトボールの学習に自主的に取り組もうとしている。 ②互いに助け合い教え合おうとしている。 ③自己の責任を果たそうとしている。 ④作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 ⑤フェアなプレイを大切にしようとしている。 ⑥健康、安全を確保している。	①仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ②球技を継続して楽しむための自己に適した関わり方を身に付けている。 ③提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。	①キャッチボール、バッティングの基本技能を身に付け、安定したバット操作とボール操作ができる。 ②ゲーム中、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃ができる。 ③ゲーム中、仲間と連携した守備などの動きができる。	①運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ②技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ③試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

5 単元の指導と評価の計画（全17時間）

時	1	2～4	5～7	⑧～12	13	14～17
ねらい	○ソフトボールの特性やルール、授業の取り組み方を理解する。	○仲間と協力して練習に取り組む、ソフトボールの基本技能を身に付ける。	○状況に応じた守備の連係を図り、互いに助け合いながら、課題解決に取り組む。	○簡易ゲームを通して、ソフトボールの特性に応じた攻守を理解する。	○互いに助け合いながら、審判法と試合運営を行えるようにする。	○作戦や戦術を用いてゲームを行い、勝敗を競い合う楽しさを味わう。
指導の内容	○特性や約束事、安全な用具の扱い方 ○役割分担やチーム編制	○ボールやグローブ、バットなどの基本的な扱い方	○自己や相手チームの特性、作戦・戦術に合った守備体系の連携	○作戦や戦術を生かした、簡易ゲームの取り組み方	○試合を運営するために必要な審判法の理解	○自己のチーム状況に応じた作戦・戦術の選択
	1 特性の理解 ・運動の特性や楽しみ方、学習	用具準備 集合 出席確認 健康状態の確認 ランニング 準備運動 補強運動 キャッチボール 本時のねらいと学習内容の確認				

学 習 過 程	の約束事，安全 な学習の仕方 2 基本技能の確認・用具の扱い方の確認 ・キャッチボールと内野ノック 3 学習の準備 ・チーム編制や役割分担 4 学習の振り返りとまとめ ・学習カードの活用の仕方	1 守備基本動作① ・ゴロ捕球の姿勢とグローブの使い方 ・フライ捕球の姿勢とグローブの使い方 ・カットプレー（タイム計測）	2 攻撃基本動作 ・バットの握り方 ・打撃フォーム ・ティー打撃 ・バット操作の仕方 ・安全に配慮した活動	2 守備基本動作② ・守備位置のとり方 ・シートノック ・自分や仲間の課題を見つけ練習方法について，お互いを尊重しアドバイスをし合う	1 簡易ゲーム ・①無死，走者二塁からの試合開始 ・②一死，走者三塁からの試合開始 ・③一死，走者二塁からの試合開始 ・④無死，走者一塁からの試合開始 ・⑤無死，走者一・三塁からの試合開始 ・⑥一死，満塁からの試合開始 ・状況に応じた作戦や戦術を選んでいる ・自己やチームに適した作戦を積極的に話合う 2 審判法 ・ルール理解（正規のルール：タッチアップ，スクイズ，進塁打など） ・試合の行い方（攻守交代，投球練習，ゲーム成立など）	1 まとめのゲーム ・既習の作戦や戦術を活用した試合 ・ソフトボールの楽しさや勝敗を競う楽しさを味わう ・安定したバット操作や守備の連係の確認
	整理運動 学習カードの記入 集合 本時の振り返り 健康状態の確認 次時の予告 挨拶 片付け					
評 価	①	②	② ③	④		⑤ ⑥
関 心 技 術 知 識		①	②	③		② ③
方 法 計 画	①			②	③	
場 面	・行動観察 ・学習カード	・行動観察 ・学習カード	・行動観察 ・学習カード	・行動観察 ・学習カード	・行動観察	・行動観察 ・学習カード
画	2 4	1 2	1 2	1 2	2	1

6 本時の指導

(1) 題材名「二塁走者を生還させよ！」

(2) 本時のねらい

- ・提供された試合場面において，自己やチームの技能の特徴を踏まえ，得点するために必要な作戦や戦術を選ぶことができる。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価規準	Aとする具体的な姿
思考・判断	提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。【思考・判断③】	提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を状況に応じて適切に選んだ。

(4) 学習指導上の工夫

- ・3チーム編制による試合形式での攻防を楽しませる工夫。(18人いなくとも試合ができる工夫)
- ・簡易的なルールを用いて，攻防を楽しませるための作戦の工夫。(無死・走者二塁からの攻防)
- ・リズムよく試合を運営させるための工夫。(ティー台を用いての打撃)
- ・安全面を考えたの用具使用。(安全ボール・安全バットの使用)
- ・作戦を書き残すための，作戦ボードの活用。(言語活動の充実)
- ・守備の定位置がわかるための工夫。(平面状のゴム製マーカーの活用)
- ・バットの持ち方の工夫。(打球の飛距離と球速を抑えることでの安全面の配慮)

(5) 準備物

- ・ソフトボール用具一式(グローブ・安全バット・安全ボール・ベース・ティー台)
- ・ホワイトボードとペン
- ・作戦ボード
- ・学習カード
- ・マーカー
- ・得点表
- ・ビブス

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問 (●予想される生徒の反応)	形態	指導上の留意点	評価
導入 12分	<p>1 用具準備・ランニング・準備運動・補強運動・キャッチボール ①ランニング・体操・ストレッチ ②キャッチボール</p> <p>2 集合・出席確認・健康状態の確認</p> <p>3 本時のねらいと学習内容の確認</p>	<p>グループ</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>	<p>・安全面に気をつけながら、お互いの健康状態を確認して取り組んでいるかを観察・声がけをする。</p> <p>・表情を見ながら観察する。</p> <p>・本時のねらいを理解させる。</p>	
<p>ミッション：二塁走者を生還させよ！</p>				
<p>・このミッションを提示することで、単純に、打っていただくだけでは、二塁走者を生還させ、得点できないことに気付かせ、どう作戦や戦術を選んでいけば得点に結びつくのかを経験させ、ねらいの達成に迫る。</p>				
<p>4 ねらいに迫る(1) ゲームの条件と判断 ・特別ルールをもとに、ゲームを成立させるための条件を確認する</p>				
	<p>【特別ルールの説明】</p> <p>①攻撃のルールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無死，走者二塁からのゲームスタート（その後は継続プレー）。 ・打順は，自分たちで決める。 ・打者の空振り，ティー台を打ってしまう行為は，1回限り。2回目はアウト。 ・盗塁，リード，スライディングは禁止。 ・打者は，バットを指定された持ち方で使用すること。 <p>②守備のルールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内野におけるゴロ捕球は捕ったら1アウト。 ・内野の範囲は，それぞれのベースの3m後ろまでとする(マーカー) ・フライの捕球は2アウト。 ・3アウトチェンジ。 ・守備位置は，捕手は定位置で守る。それ以外の守備位置は自由。 <p>③作戦ボードの使い方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃を行う前に，チーム内で考えた作戦や戦術を記入すること。 ・作戦ボードに書かれた作戦や戦術は，次のイニングでの攻撃に役立つこと。 <p>●通常のルールとは違っていることに，困惑する生徒がいる。</p> <p>●二塁走者を生還させるための作戦や戦術をイメージしながらチーム内に話すことができる生徒がいる。</p>	<p>一斉</p> <p>⇒</p> <p>⇒</p>	<p>・安全面の約束事を徹底させる。</p> <p>・簡易ゲームを行うためのルールを簡潔に説明し，ミッションを意識させる。</p> <p>・作戦ボードの使い方とともに，走者を進塁させるための作戦や戦術を一部紹介し，二塁走者を生還させるための作戦や戦術のイメージをさせる。</p> <p>・二塁走者を生還させるイメージができる生徒には，作戦ボードを用いながら，仲間に対して作</p>	

<p>展開 30分</p>	<p>戦や戦術を提案させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>5 ねらいに迫る(2) 思考と実践 ・得点を取るための戦術を考えながら、ゲームを行う</p> </div> <p>3チームによる簡易ゲーム</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>① A・Bの合同で守備をし、Cが攻撃をする。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>② A・Cの合同で守備をし、Bが攻撃をする。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>③ B・Cの合同で守備をし、Aが攻撃をする。</p> </div> <p>これで1イニング ゲームの進行状況を見ながら、3～4イニング、ゲームを行う</p> <p>● 戦や戦術をイメージできないまま、単調な攻撃(バッティング)をしてしまう生徒がいる。</p>	<p>一斉 グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦や戦術を組み立てるのに困惑しているチームには、各チームの実態に応じて、守備位置のとり方や打順の組み方、二塁走者を生還させるためのポイントをアドバイスし戦や戦術を話合わせる。 ・ 混乱するようなプレーが生じた時には、適宜説明やアドバイスを行う。 ・ 安全面に留意させる声かけを行う。 ・ 攻撃側には、ゲームが始まる前に、得点をとるための戦術を戦ボードに記入させる。 ・ 守備側には、2つのチームで話し合わせ相手の攻撃を予測させて守備位置を決めさせる。 <p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単調な攻撃になってしまったことを戦ボードを用いながら指摘し、どんな戦・戦術を講じられたかを再度、同じ条件を想定させて選択肢を考えさせるアドバイスを行う。 	<p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提供された戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた戦や戦術を選んでいる。(観察)
<p>まとめ 8分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>7 ねらいに迫る(3) 戦・戦術の分析 ・本時のゲームを振り返り、成功し要因と失敗した要因を考える</p> </div> <p>● チームで考えた戦術通りに取り組めなかった生徒がいる。</p>	<p>グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各チームごとに、攻撃の戦について意見を交わせ、ねらいに迫ることができたかを確認させる。 ・ 戦ボードを見ながら自チームの戦術を分析させる。 <p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦術通りに、プレーしようとしたが、技術不足でできなかった生徒には、また新たな戦術に取り組むよう促す。また、戦術を理解できずに行ったプレーには、戦ボードを用いながら、自己のチームが行いたかったプレーを確認させる。 	
	<p>8 学習カードの記入</p>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の成果や評価を次時にどう生かすかを記入させる。 	
	<p>9 振り返りの共有</p>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各チームごとに、本時の成果と課題を発表させ、ねらいに迫ることができたか、全体で共有する。 	
	<p>10 次時の予告</p>	<p>一斉</p>		
	<p>11 健康状態の確認・解散・片付け</p>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気よく挨拶させる。 	

(7) 板書計画

掲示物①

【特別ルール・攻撃編】

- ①無死・走者二塁からのゲームスタート。
*その後は、継続プレー。
- ②打順は、自分たちで決める。その後は固定。
- ③打者の空振り、ティー台を打ってしまう行為は、1回限り。2回目はアウト!
- ④盗塁・リード・スライディングは禁止。
- ⑤打者は、バットを指定された持ち方で使用すること。

掲示物②

【特別ルール・守備編】

- ①内野におけるゴロ捕球は捕ったら1アウト! *捕球できなかつたら送球すること。
- ②内野の範囲は、それぞれのベースの3m後ろまでとする。(黄色いマーカーの範囲まで)
- ③フライの捕球は2アウト!
*内・外野どこでも捕球したら2アウト。
- ④3アウトチェンジ。
- ⑤守備位置は、捕手は定位置で守る。それ以外の守備位置は自由。

掲示物③

【得点表】

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
A ○○○							
B ○○○							
C ○○○							

- Aチームが攻撃するときは→ B・Cで守備
- Bチームが攻撃するときは→ A・Cで守備
- Cチームが攻撃するときは→ A・Bで守備

掲示物④

【作戦ボードの使い方】

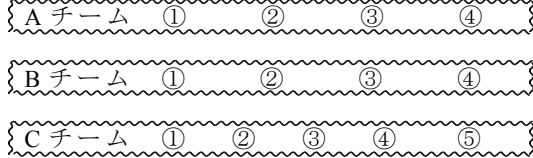
二塁走者を生還させよ!

攻撃をする前に、二塁走者を生還させるための作戦を考えよう!

【1回の攻撃】			<結果>
①	②	③	点

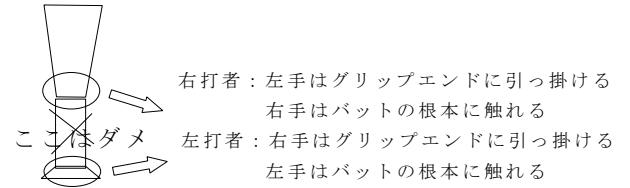
掲示物⑤

【チームの編制】



掲示物⑥

【バットの持ち方】



(8) 学習プリント・ワークシートなど

- ・別紙1 (学習カード)
- ・別紙2 (観点別評価表)
- ・別紙3 (作戦ボード)
- ・掲示物①～⑥ (特別ルール①攻撃編・②守備編, ③得点表, ④作戦ボードの使い方, ⑤チームの編制, ⑥バットの持ち方)

参考文献

- ・高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 <文部科学省>
- ・「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 (高等学校 保健体育)」
<国立教育政策研究所・教育課程研究センター>